

広 川 町
立地適正化計画の策定に向けた住民意向調査
分 析 報 告

令和8年8月

広川町都市計画課

目 次

1 調査の目的	1
2 調査の方法(調査報告書より抜粋)	1
あなた自身のことについて	2
(4)住んでいる期間(問5)	2
日常生活について	
(1)住んでいる地域の利便性(問7)	3
(2)通勤・通学先の地域(問8-1)	6
(6)食料品や日用品などを買い物する地域(問10-1)	7
広川町の都市機能・交通について	
(1)現在の広川町に対する良いイメージ(問11-1)	8
(2)現在の広川町に対する悪いイメージ(問11-2)	9
(3)将来なって欲しい広川町のイメージ(問11-3)	10
(4)広川町の中心部はどこか(問12)	11
(5)広川町の中心部に必要な機能(問13-1)	12
(7)ふれあいタクシーを利用しやすくするための取組(問14)	13
(8)町内の道路を利用しやすくするための取組(問15)	14
広川町の防災について	
(1)住んでいる地域の自然災害に対する危険性(問16)	15
(2)あなたご自身が取組んでいる防災対策(問17)	16
(4)避難所の利用についての課題や問題(問19)	17
(5)広川町の防災対策に関する取組(問20)	18

※各問の項目番号は「広川町住民意向調査報告書」記載の項目番号であり、分析内容を抜粋している

郵送とWEBを合わせると45%と住民アンケートの回収率としては高い

1 調査の目的

本調査は、「広川町立地適正化計画」の策定に向け、日常生活、都市機能の利用実態、防災意識など、本町に必要な機能・施設などについての町民の意向を把握し、計画策定の基礎資料として活用するものである。

2 調査の方法

(1)調査の対象

広川町に住所登録のある18歳以上の町民から無作為抽出された男女2,000人を対象とする。

(2)標本数及び有効回答数(率)

① 標本数

・ 郵送	658件
・ WEB	243件
合計	901 件

② 回収率

・ 郵送	32.9%
・ WEB	12.1%
合計	45%

(3)配布・回収方法と調査時期

郵送にて配布・回収するとともに、WEBアンケートによる調査も実施した。

① 発送開始：令和8年1月23日

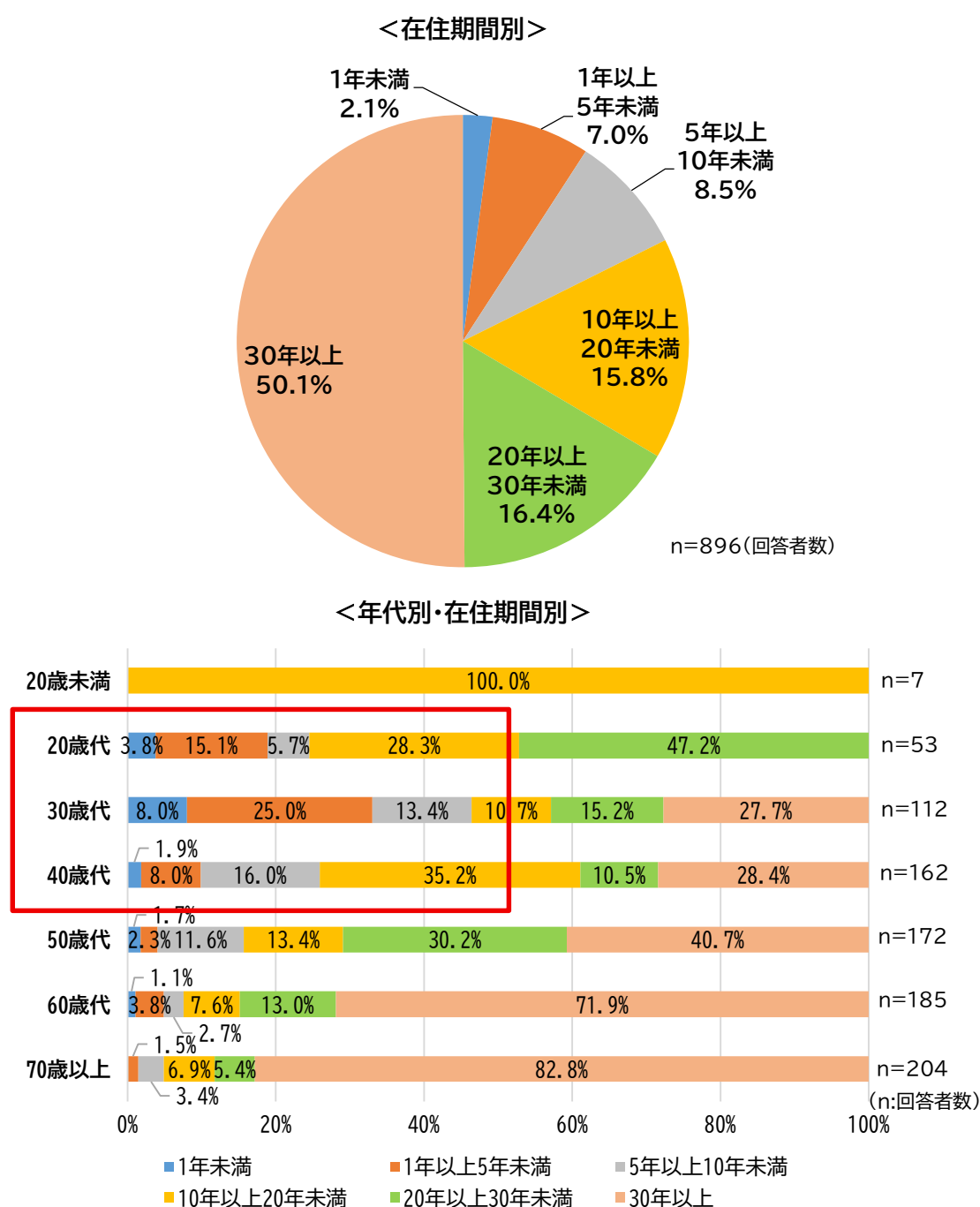
② 回答締切：令和8年2月8日 ※最終締切：2月28日

就職や結婚・子育てを期に広川町に移り住んだ、20～40歳代の現役世代

1 あなた自身のことについて

(4)住んでいる期間(問5)

- 回答者が本町に住んでいる期間は、30年以上の在住者が5割を超えており最多を占めている。また、10年以上在住している回答者が8割を超えている。
- 回答者を年代別に見ると、20歳代と30歳代の5年未満の割合が高い。また、40歳代においては、10年以上20年未満の割合が高い。これは、就職や結婚・子育てにおいて、本町に転居してきたということが要因のひとつであることがうかがえる。

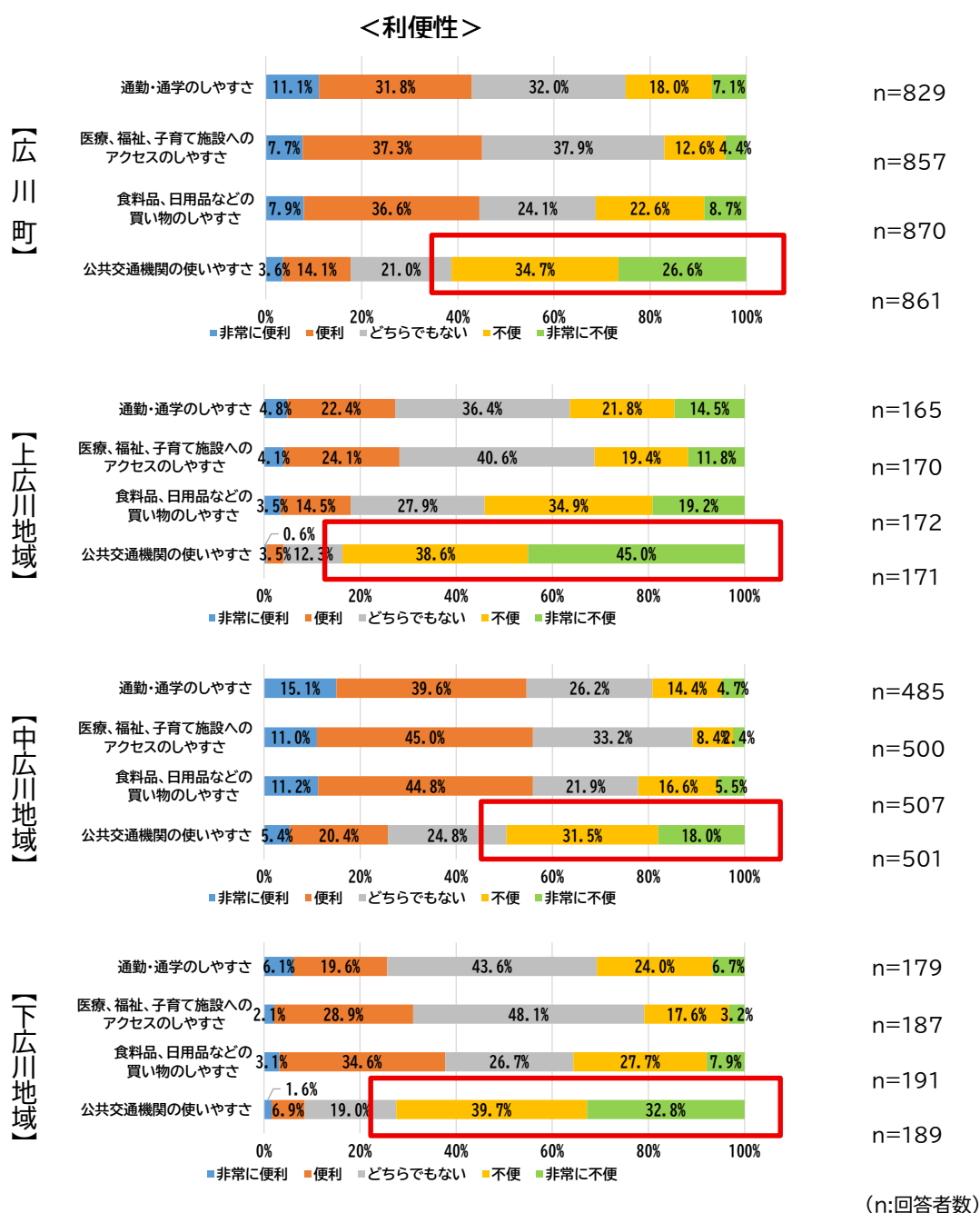


広川町の立地適正化計画において、「公共交通」のあり方検討が重要テーマ

2 日常生活について

(1)住んでいる地域の利便性(問7)

- 回答者が居住する地域の利便性について、「通勤・通学」、「医療、福祉、子育て施設へのアクセス」、「食料品、日用品などの買い物」の評価についてはそれぞれ「便利」、「非常に便利」が全体の4割を超えているが、「公共交通機関」については「不便」、「非常に不便」を合わせて6割を超えている。
- 地域別でも同様の傾向にあるが、町の中心部である中広川地域の利便性に対する評価は高い。「食料品、日用品などの買い物」に関する利便性に関しては、上広川地域と下広川地域で評価が分かれた。

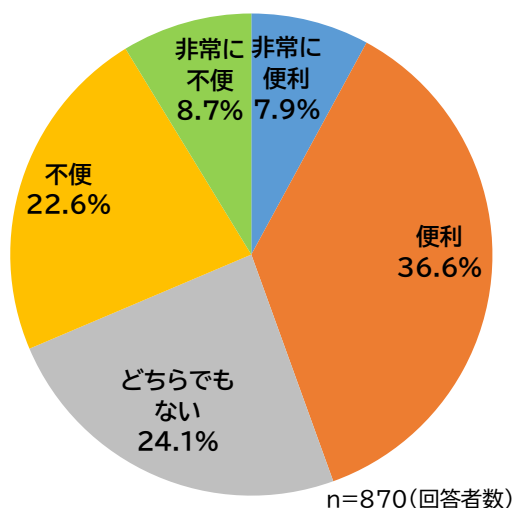


生活に必要となる食料品や日用品の買い物は、地域で事情が大きく異なる

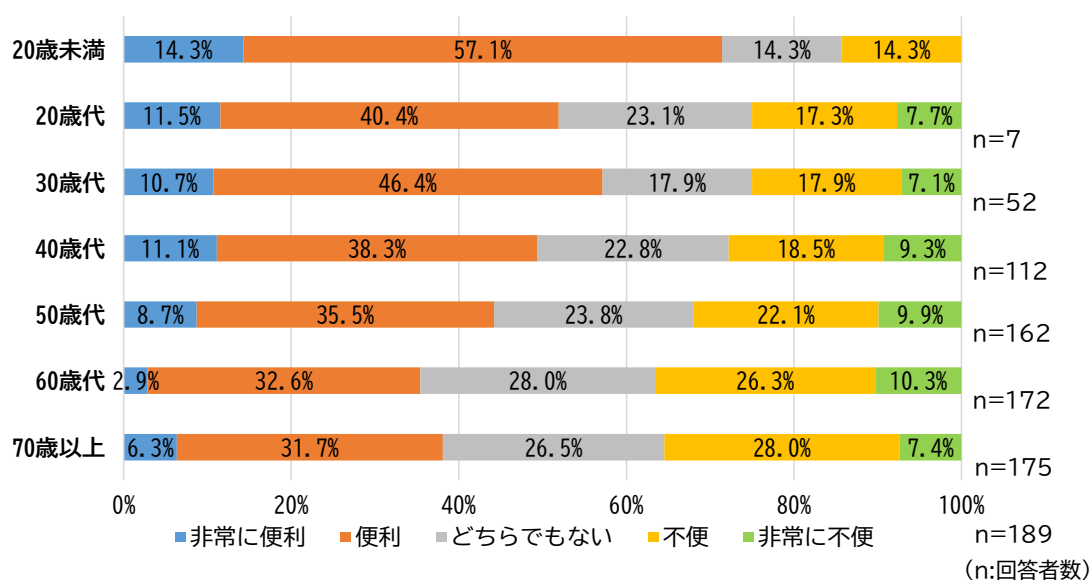
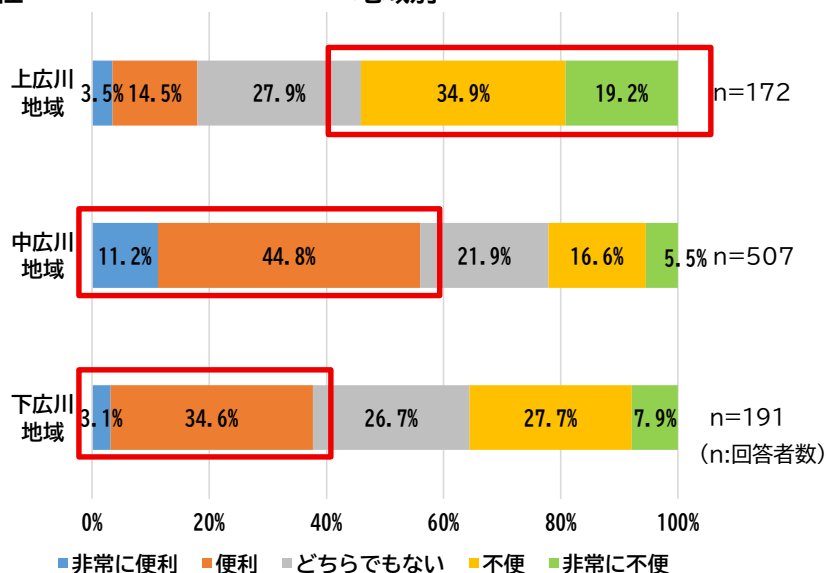
【食料品、日用品などの買い物のしやすさ】

- 回答者が居住する地域の食料品等の買い物に対する利便性については、「便利」が最多で「非常に便利」と合わせると4割半ばになる。
- それに反して「不便」「非常に不便」を合わせると3割を超えており、「どちらでもない」を大きく上回った。
- 地域別に見ると、**中広川地域の利便性に対する評価が高いが、下広川地域においても「便利」と回答された割合も高い。**一方で**上広川地域においては、「非常に不便」「不便」と合わせると5割**を超え、買い物に対する利便性に課題を感じる回答結果となった。
- 年代別では若年層ほど利便性を感じているが、地域別で意見の違いが顕著であるため、地域による利便性の格差がうかがえる。

<食料品、日用品などの買い物の利便性>



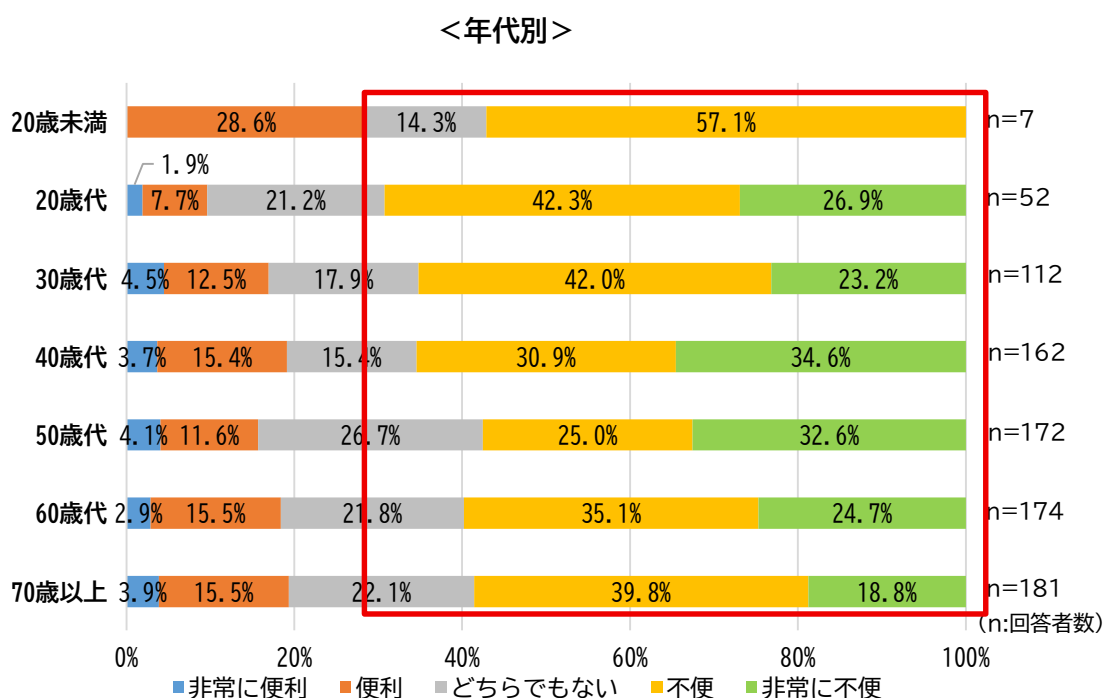
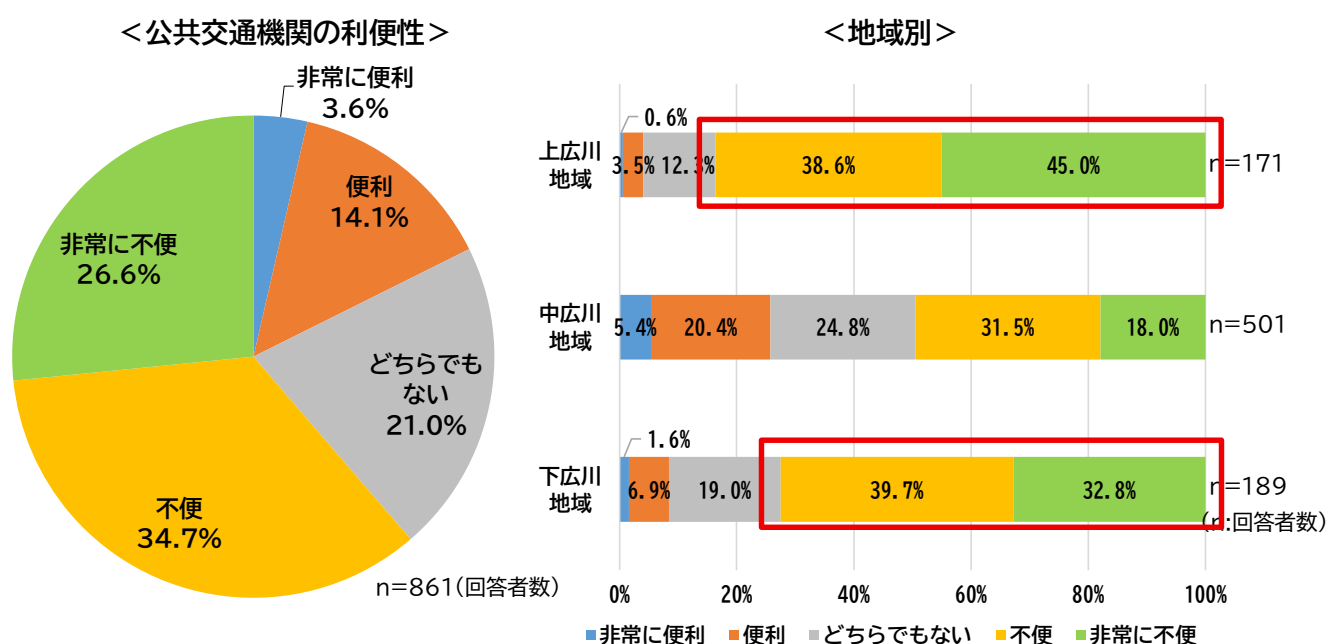
<地域別>



年齢階層でも、町の公共交通は大きな課題(特に上広川、下広川地域)

【公共交通機関の使いやすさ】

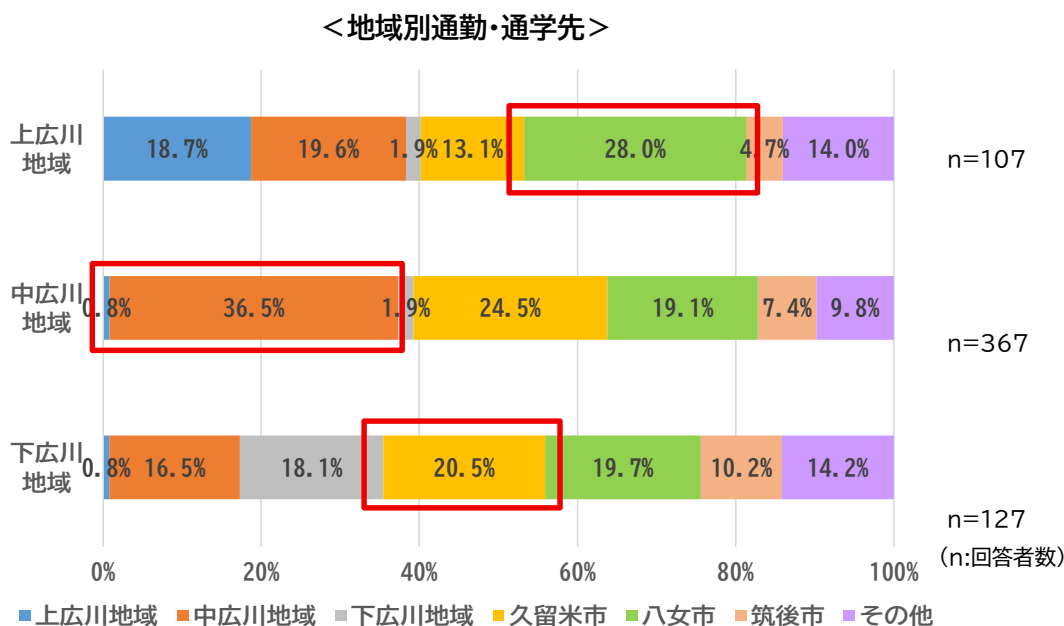
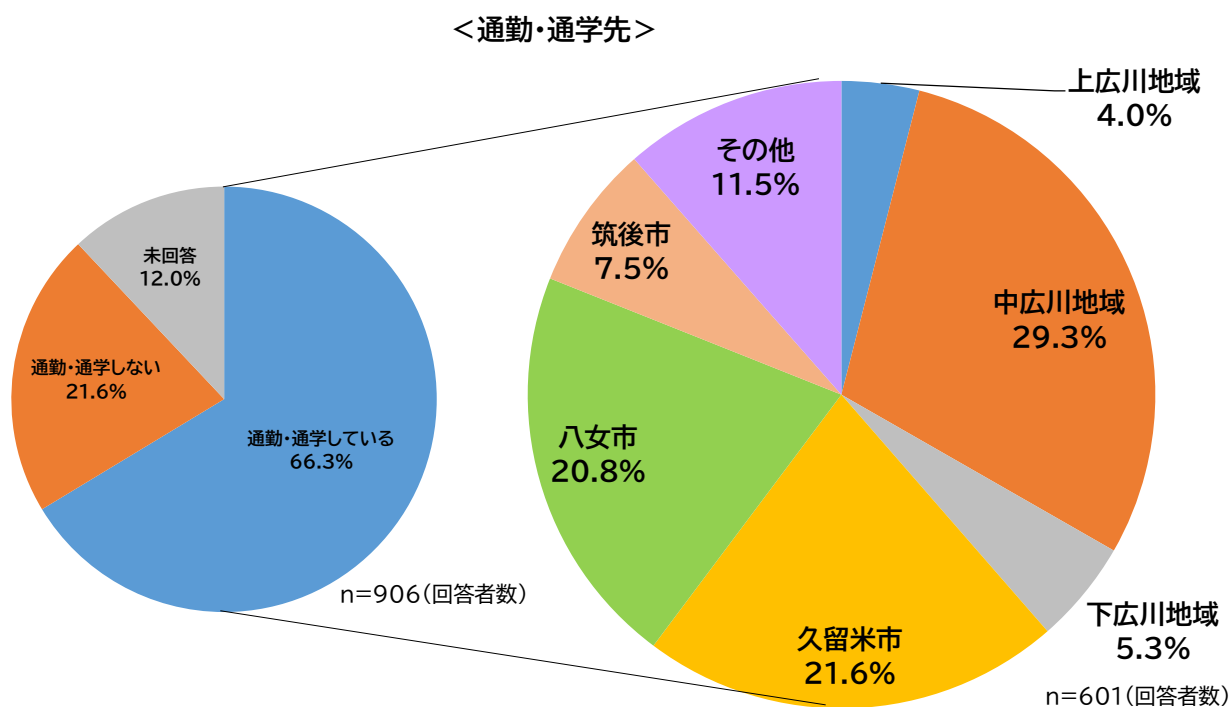
- 回答者が居住する地域の公共交通機関の利便性については、「不便」「非常に不便」と感じている人が全体で6割強という結果となった。「非常に便利」「便利」を合わせた割合は2割に満たず、公共交通機関に対する満足度が低いことがうかがえる。
- 地域別においても中広川地域の利便性に対する評価は他の地域より高いが、それでも3割を下回る回答となっている。
- 年代別に見ても、「非常に不便」「不便」を合わせて5割を超えており、日常生活における外出時の利便性の満足度に対し、公共交通機関への満足度が小さく、呼応していないと感じられる。



通勤・通学先とのつながりに、3地域別の特徴が見られる

(2)通勤・通学先の地域(問8-1)

- 回答者の6割半ばの回答結果より集計した。3割弱の回答者が「中広川地域」に通勤・通学しており最も多い。次いで「久留米市」、「八女市」の隣接市となっている。「筑後市」と合わせると5割近くの回答者が他市へ通勤・通学している。
- 地域別に見ると、中広川地域の居住者は地元地域への通勤・通学の割合が高く、上広川地域の居住者は「八女市」への通勤・通学の割合が高い。また、下広川地域の居住者は「久留米市」の割合が高くなっていることから、通勤・通学においては地域ごとに特色が感じられる結果となった。

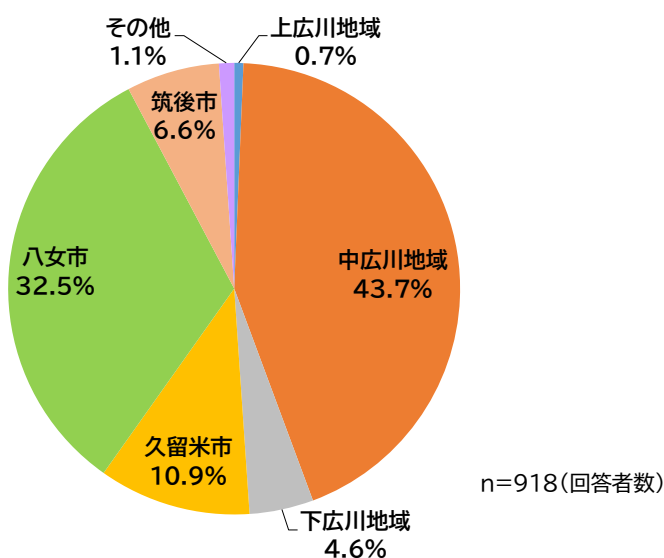


上広川・中広川は八女市、下広川は筑後市をはじめ様々な地域で買い物

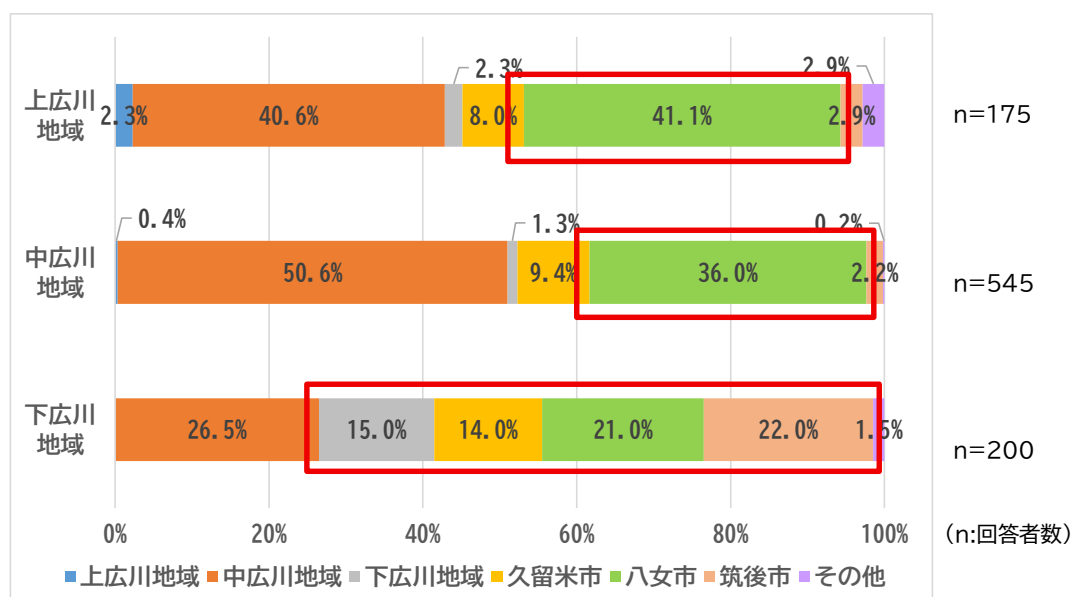
(6)食料品や日用品などを買い物する地域(問10-1)

- 回答者が買い物に利用する地域は、「中広川地域」が4割を超え、次いで「八女市」の3割を超え、この2地域の割合が大きい。通勤・通学先は「中広川地域」の次に「久留米市」の割合が高かったが、病院等の利用や買い物など、職場や学校以外の日常生活においては「八女市」との結びつきが深いと言える。
- 全体的に見ても、「中広川地域」での買い物が多い傾向だが、上広川地域では「八女市」が最も多く利用する地域となった。中広川地域においても地元に近いで多く利用する地域として「八女市」、下広川地域では「筑後市」の割合が高い。また、下広川地域においては「久留米市」及び「八女市」とも接しているため、地元での買い物と同じ割合で隣接市にも赴いていることがうかがえる。

<食料品、日用品等の買い物地域>



<地域別の買い物の利用地域>

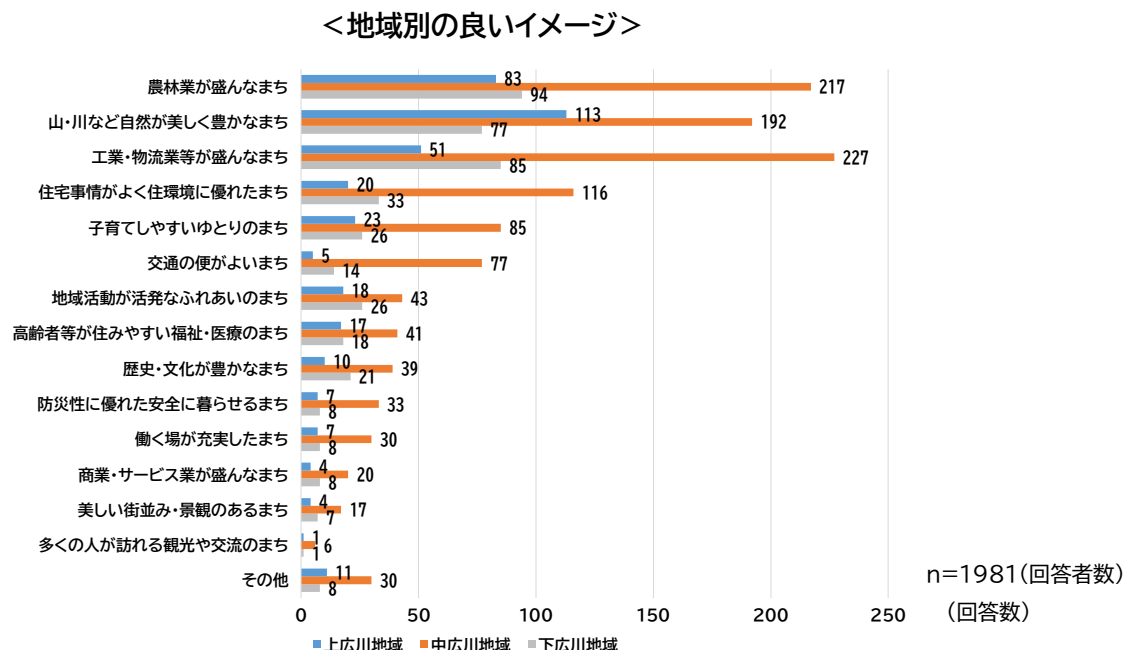
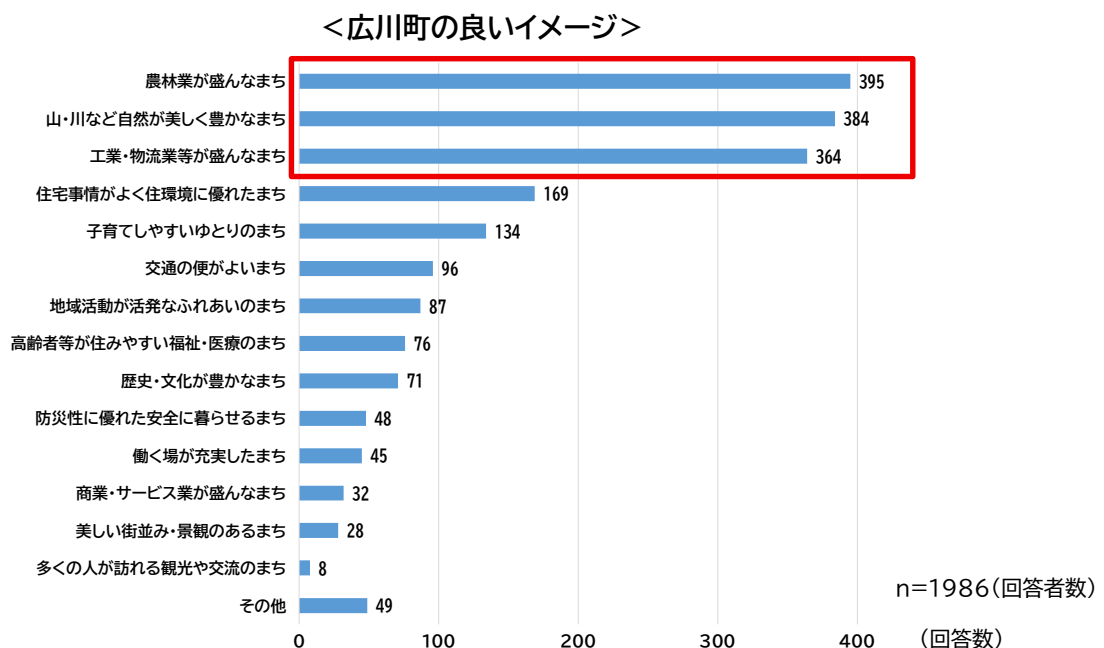


地域別イメージ:上広川(自然)、中広川(工業・物流)、下広川(農林業)

3 広川町の都市機能・交通について

(1)現在の広川町に対する良いイメージ(問11-1)

- 回答者の本町に対する良いイメージは、「農林業が盛んなまち」が395人、「山・川など自然が美しく豊かなまち」が384人、「工業・物流業等が盛んなまち」が364人と、この3項目が他の項目より多くなっており、本町の**自然と地場産業に対する想い**が回答数に表れていると言える。
- 地域別で見ると、**上広川地域は「山・川など自然が美しく豊かなまち」、中広川地域は「工業・物流業等が盛んなまち」、下広川地域は「農林業が盛んなまち」が多く、各地域の特色がわかる回答が得られた。**

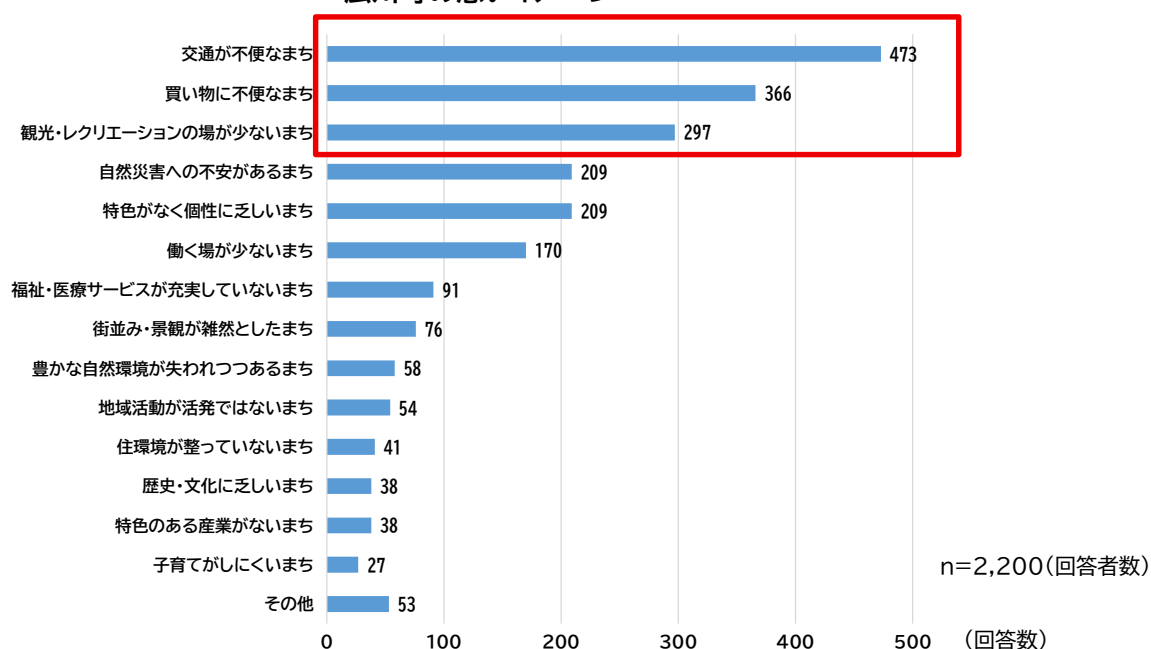


まち全体では「移動」、「買い物」、「観光」、地域別では「災害」がキーワード

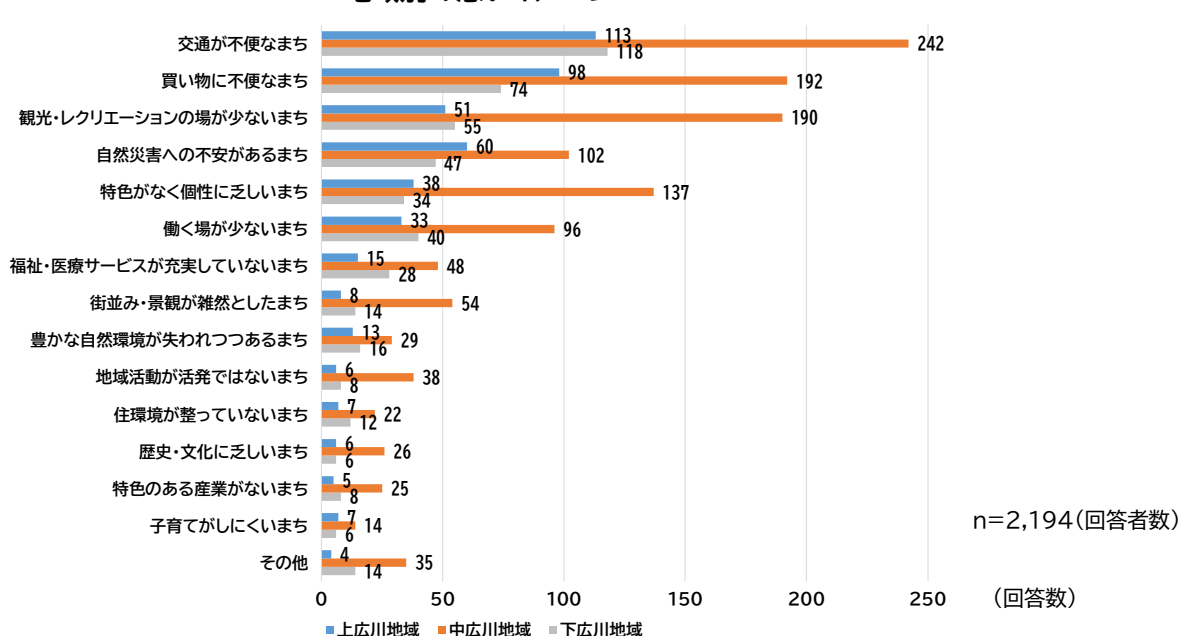
(2)現在の広川町に対する悪いイメージ(問11-2)

- 回答者の本町に対する悪いイメージは、「交通が不便なまち」が473人と最も多く、次いで「買い物に不便なまち」が366人、「観光・レクリエーションの場が少ないまち」が297人と、**公共交通機関の不足とそれに伴う買い物の利便性**といった課題が垣間見える。
- 地域別で見ると、中広川及び下広川地域は全体と同じ割合であるが、**上広川地域においては「自然災害への不安があるまち」**が「観光・レクリエーションの場が少ないまち」よりも回答数が多い。地域の大半を山林が占めているため、土砂崩れ等の自然災害等を懸念する意識が他の地域より高いことがうかがえる。

<広川町の悪いイメージ>



<地域別の悪いイメージ>

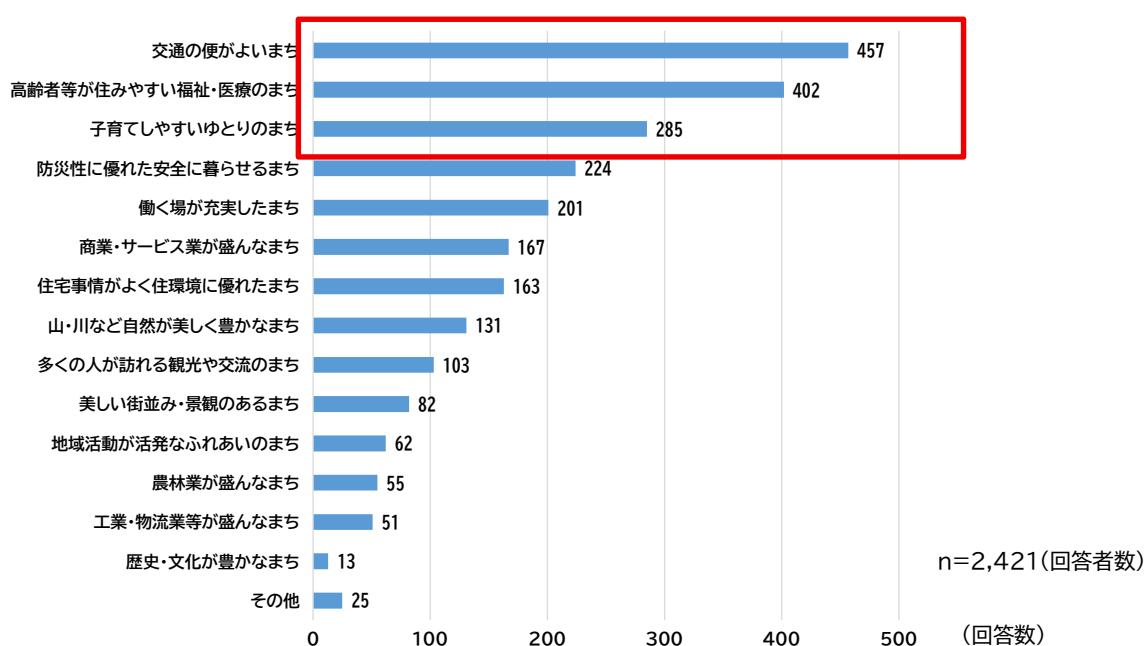


「交通利便性」、「福祉・医療」、「子育て」が町民の望むパワーワード

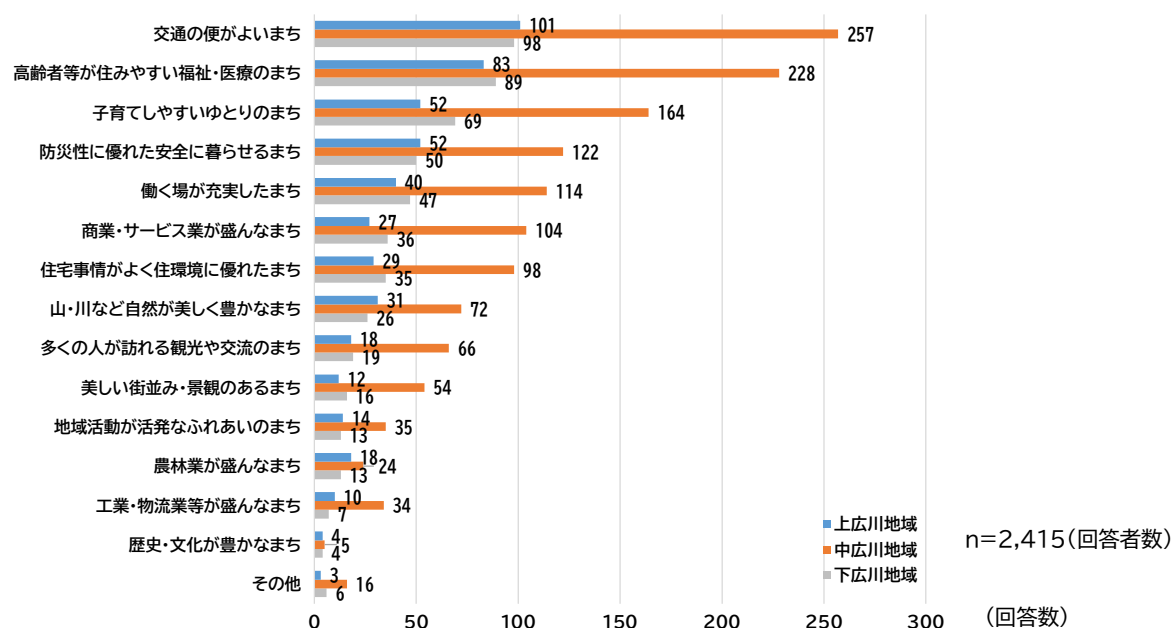
(3) 将来なって欲しい広川町のイメージ(問11-3)

- 回答者が将来の本町に望むイメージは、「交通の便がよいまち」が457人と最も多く、次いで「高齢者等が住みやすい福祉・医療のまち」が402人、「子育てしやすいゆとりのまち」が285人となっている。
- 地域別においても上位のイメージは全体の割合と同様の傾向であるため、各地域において、「交通」の利便性や「福祉・医療」、「子育て」の充実といったイメージが望まれていることがうかがえる。

<広川町の将来のイメージ>



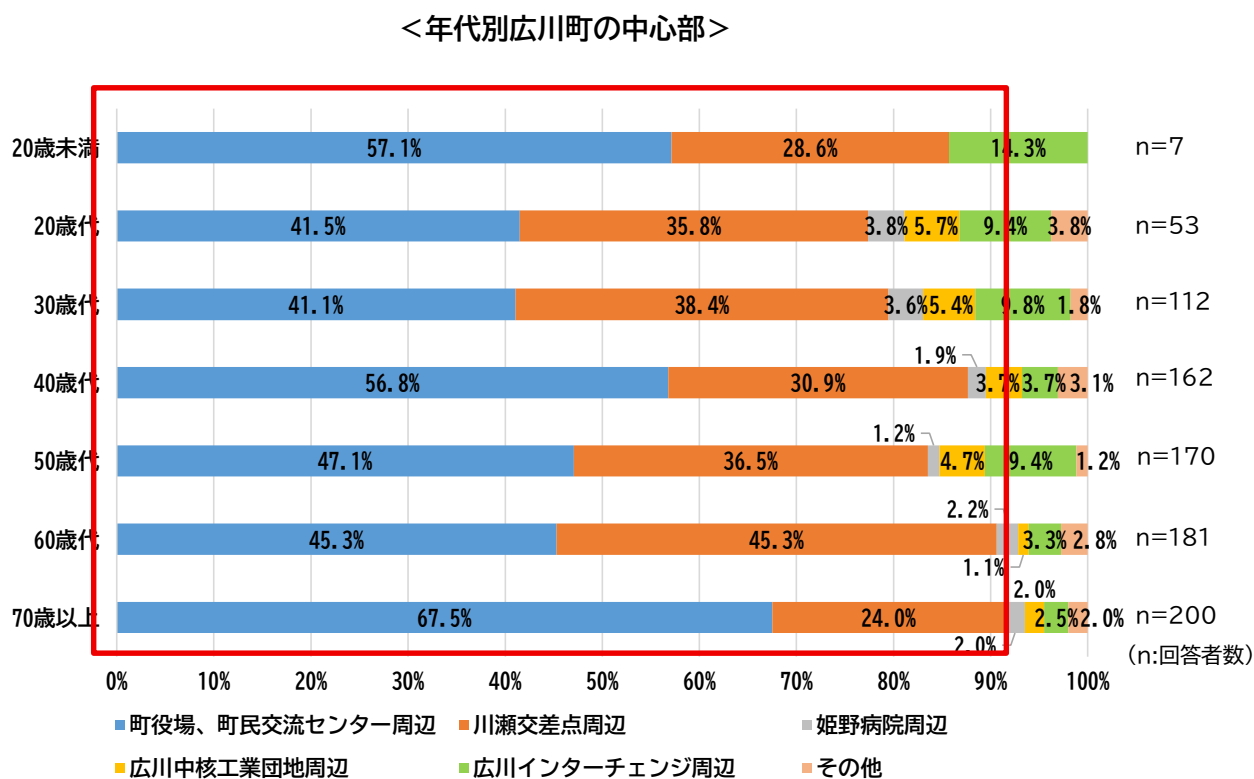
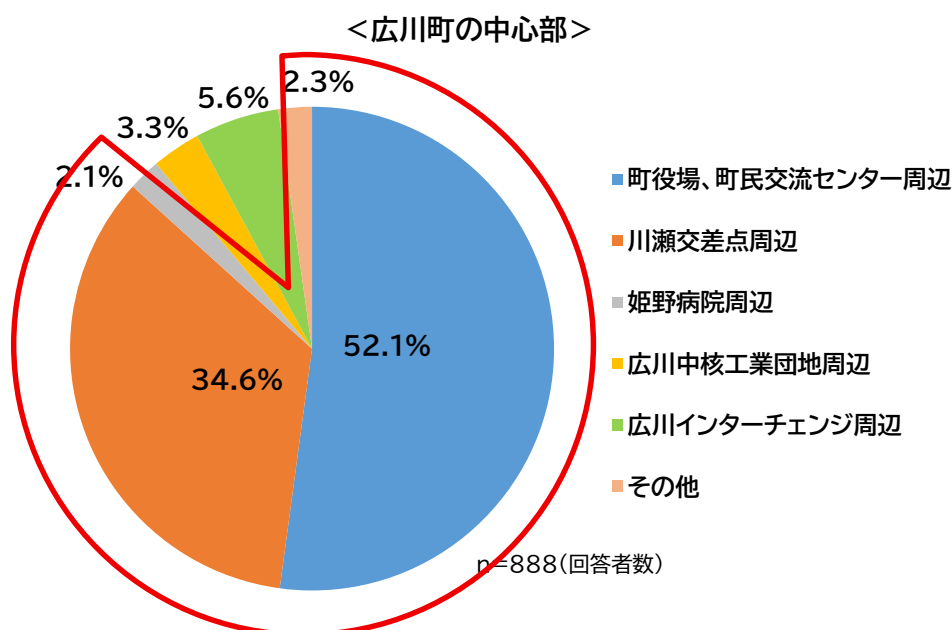
<地域別の将来のイメージ>



広川町役場周辺や川瀬交差点が、町民がイメージする中心拠点

(4) 広川町の中心部はどこか(問12)

- 回答者の本町の中心部と考える場所は、「町役場、町民交流センター周辺」が5割を超えて最も高く、次いで「川瀬交差点周辺」の3割半ばで、この2つを合わせて9割弱の回答となっていることから、**行政の中心であり、かつ主要道路が交差する市街地が本町の中心部**だという認識が大半を占めていることがわかる。

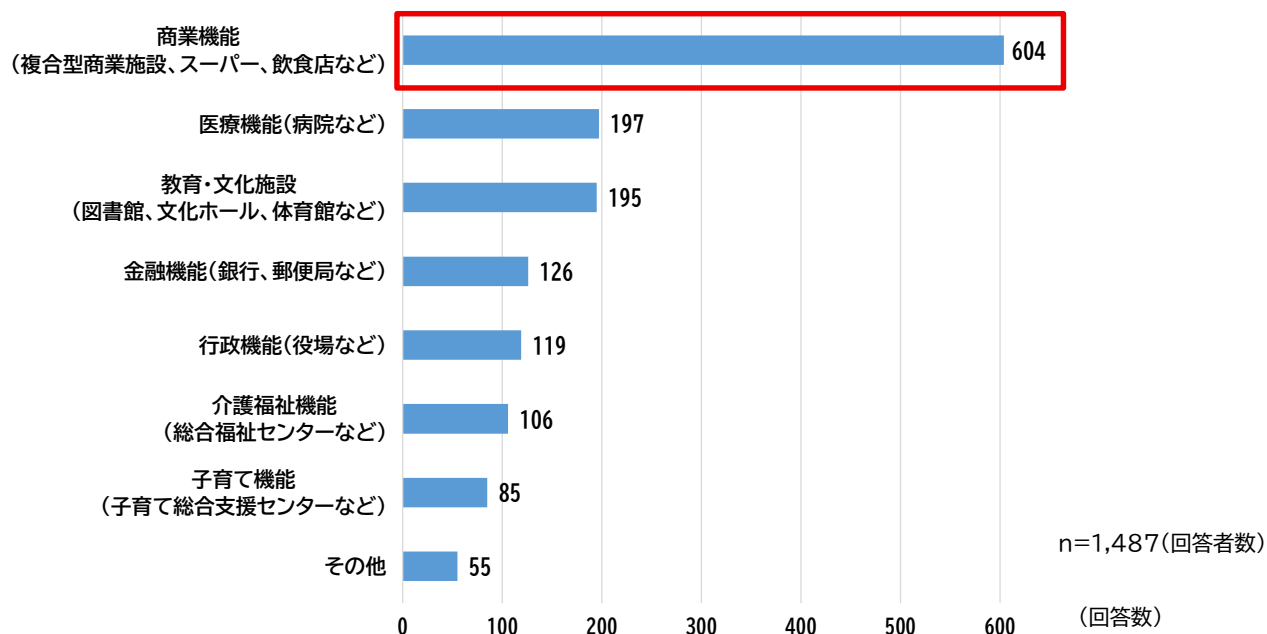


都市機能としては「商業機能」を望む声が圧倒的に多い

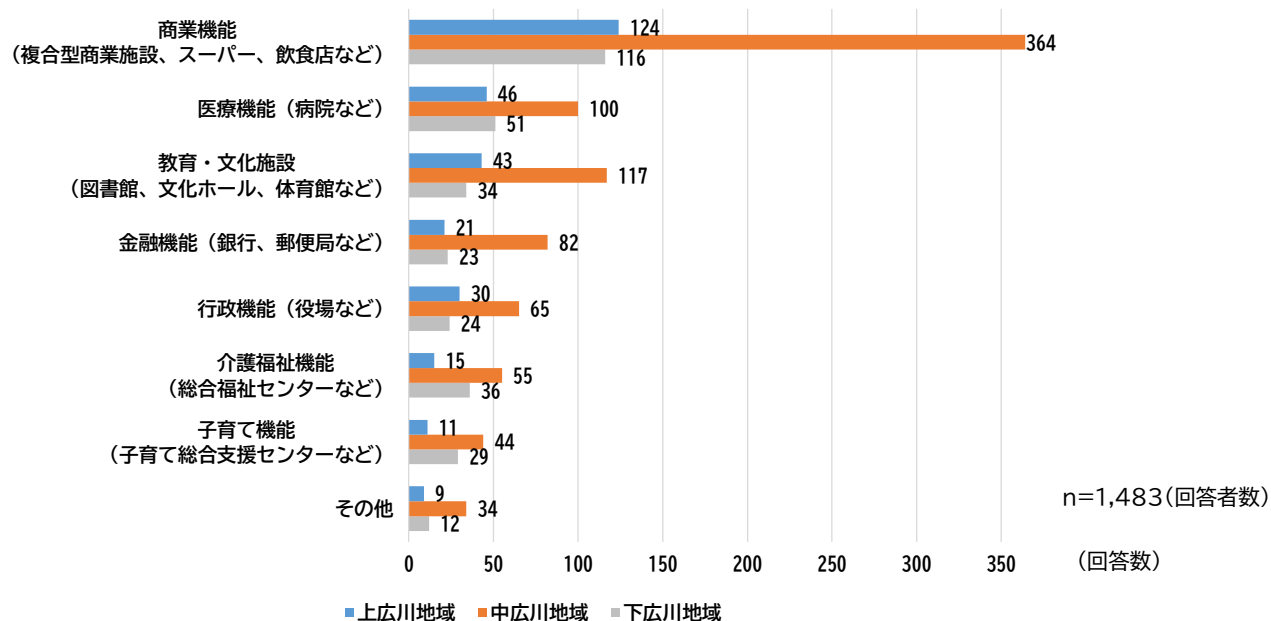
(5) 広川町の中心部に必要な機能(問13-1)

- 回答者が本町の中心部に求める機能は、スーパーや複合型商業施設等の「**商業機能**」が**604人**と**圧倒的に多い**。次いで病院等の「医療機能」が197人、図書館、体育館等の「教育・文化施設」が195人と、ほぼ同数で続いている。
- 地域別に見ると、中広川地域では「医療機能」より「教育・文化施設」の割合が高く、下広川地域においては介護福祉や子育てに関する機能が他の地域より必要という回答が多い。

<中心部の機能>



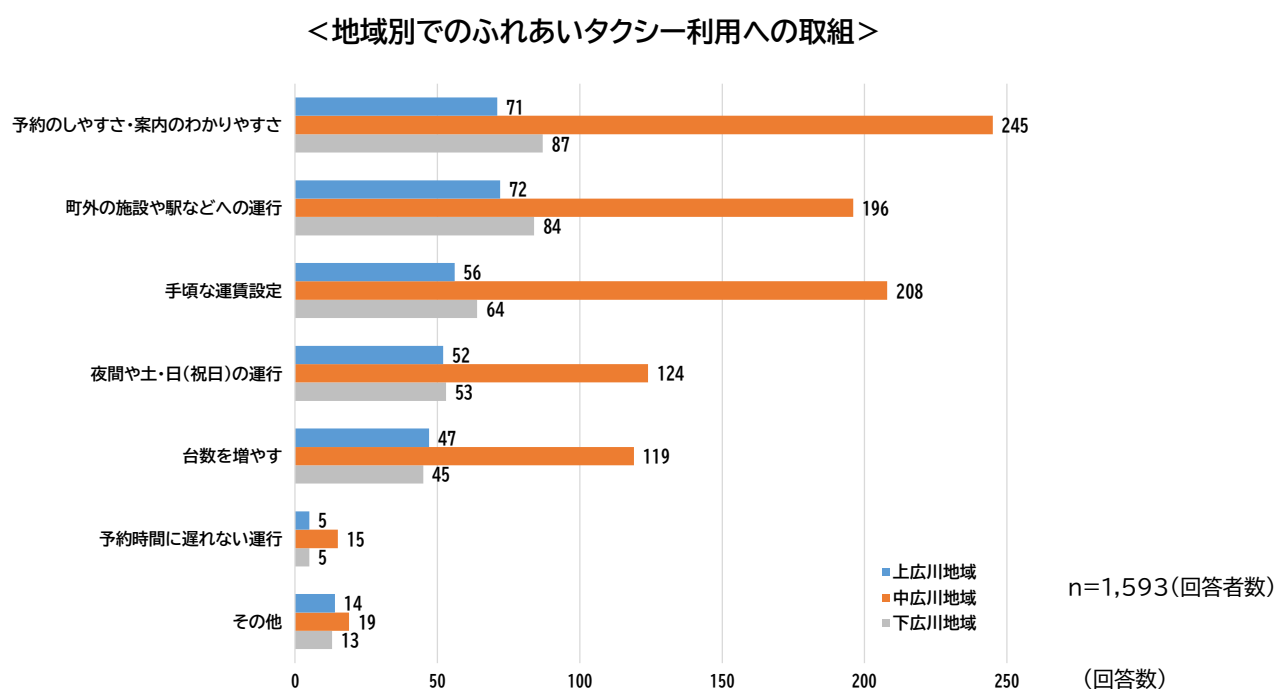
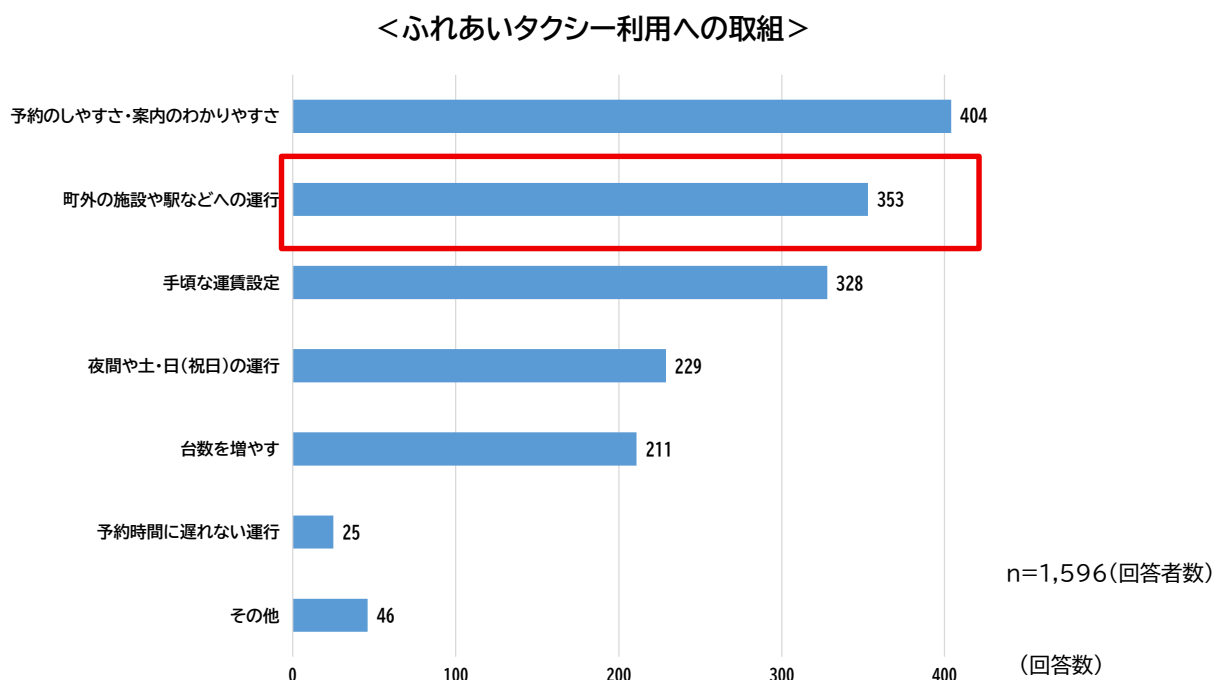
<地域別の中心部の機能>



「駅」「施設」へのアクセス性改善という「交通ネットワーク」の課題

(7)ふれあいタクシーを利用しやすくするための取組(問14)

- ふれあいタクシーの利用に関する取組については、「予約のしやすさ、案内のわかりやすさ」が404人と最も多く、次いで「町外の施設や駅などへの運行」が353人、「手頃な運賃設定」が328人となっている。
- 地域別では、**上広川地域では町外施設や駅への運行の回答が多く、中広川地域では運賃設定の回答が町外や駅への運行よりも多い。**下広川地域は全体と同様の割合であった。

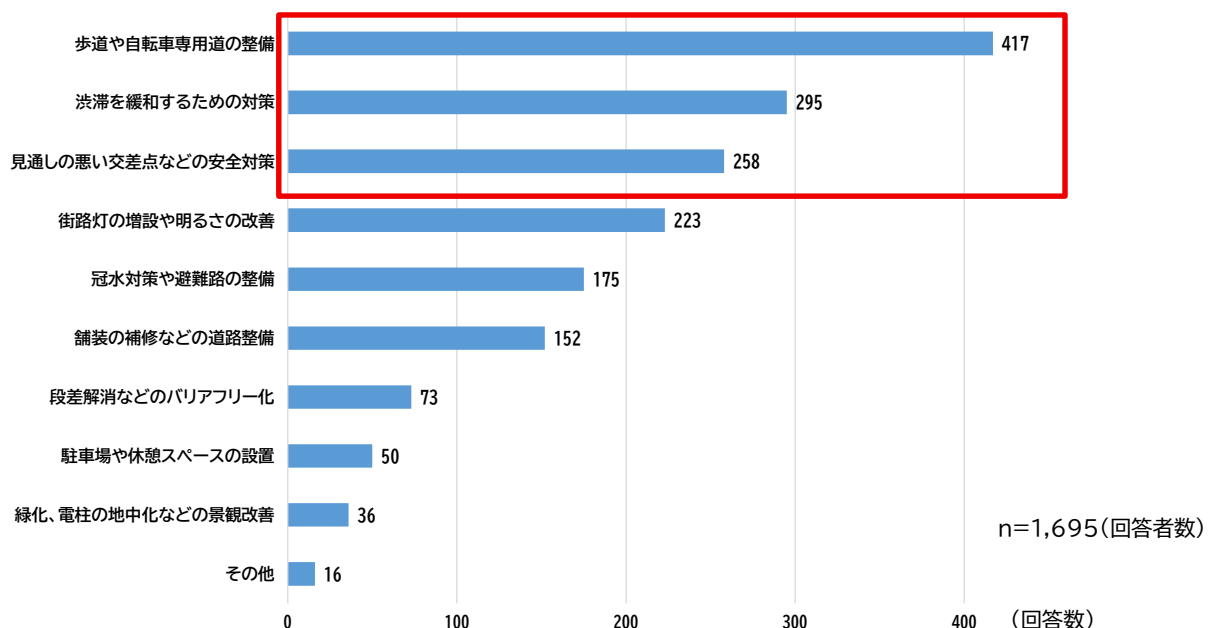


自動車への依存を減らすための、「歩道・自転車専用道」の整備という声

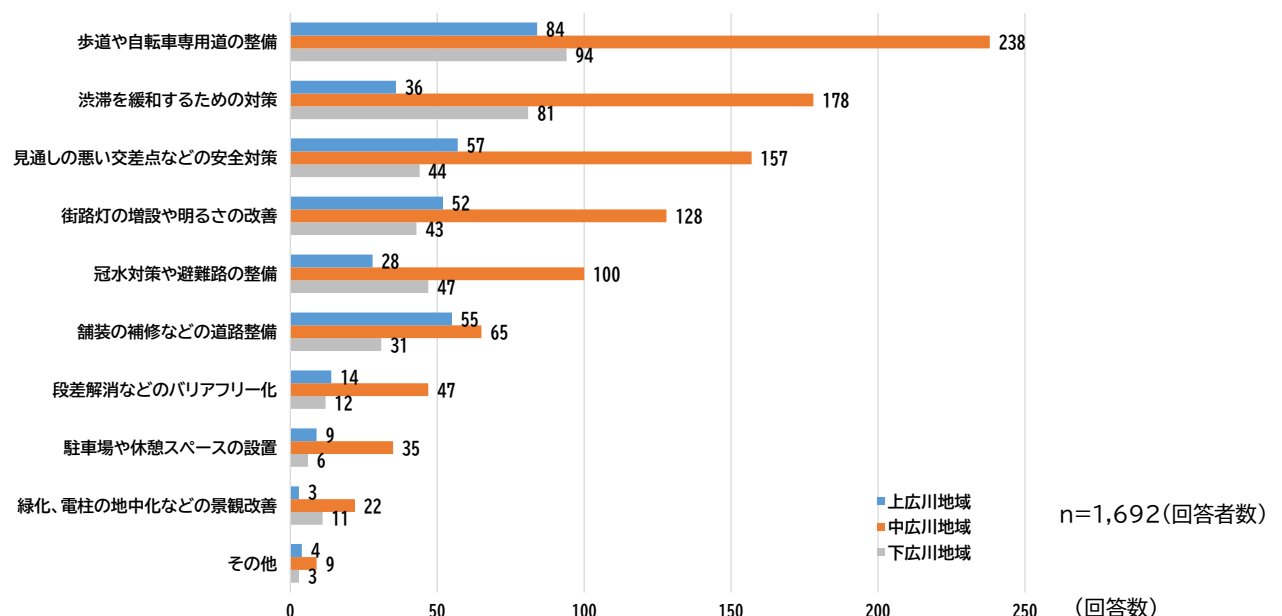
(8)町内の道路を利用しやすくするための取組(問15)

- 道路を利用しやすくするため力を入れるべき取組として、「歩道や自転車専用道の整備」が417人と最も多く、次いで「渋滞を緩和するための対策」が295人、「見通しの悪い交差点などの安全対策」が258人となっている。
- 地域別に見ると、上広川地域では渋滞緩和対策よりも「舗装の補修などの道路整備」や「街路灯の増設や明るさの改善」が多く、下広川地域では交差点の安全対策よりも「冠水対策や避難路の整備」の回答が多い。中広川地域は全体と同様の割合であるが、**地域の特性や事情により道路整備の対策について優先度が異なる**ことがわかる。

<町内道路の利用取組>



<地域別の町内道路の利用取組>

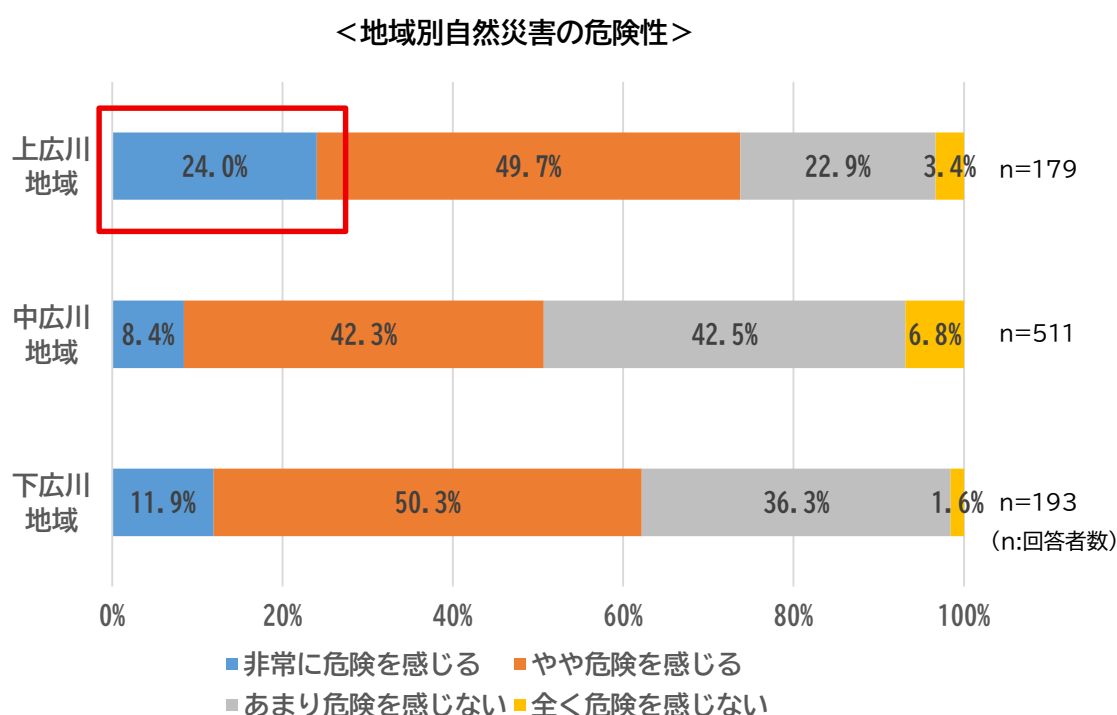
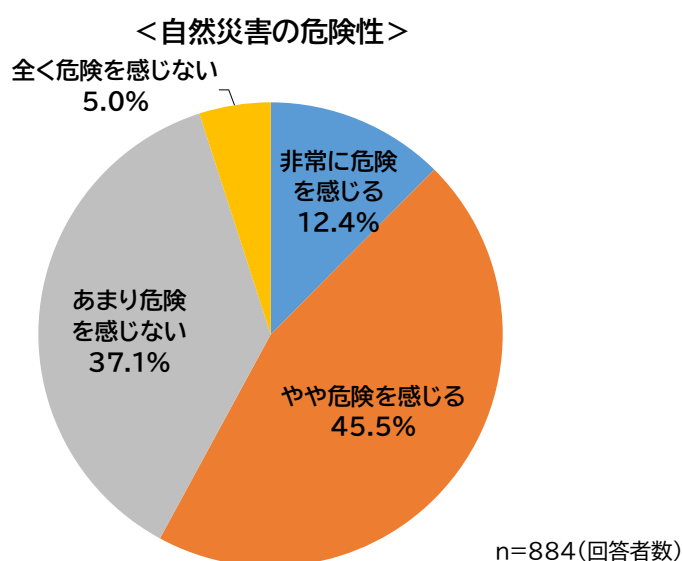


上広川地域住民は他地域よりも災害リスクに晒されている可能性が高い

4 広川町の防災について

(1)住んでいる地域の自然災害に対する危険性(問16)

- 回答者が居住する地域が地震や洪水、土砂災害などの自然災害に対して、「やや危険を感じる」が4割半ばで最も多く、次いで「あまり危険を感じない」の4割弱となっている。
- 地域別に見ると、**山林が地域の大半を占める上広川地域の住民**が他の地域に比べて危険性を強く感じており、「**非常に危険を感じる**」と「**やや危険を感じる**」を合わせて**7割**を超えている。逆に中広川地域では「あまり危険を感じない」が4割を超えて最も高い回答であった。下広川地域は全体と同等の割合となっている。

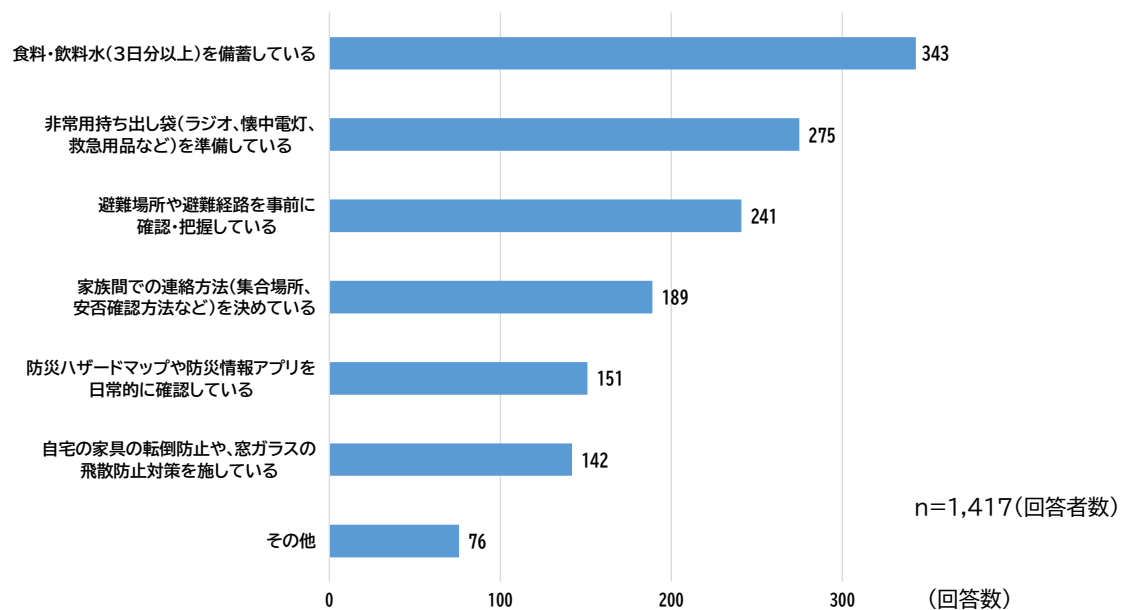


災害に対する危険認識の度合いで防災対策に変化がある

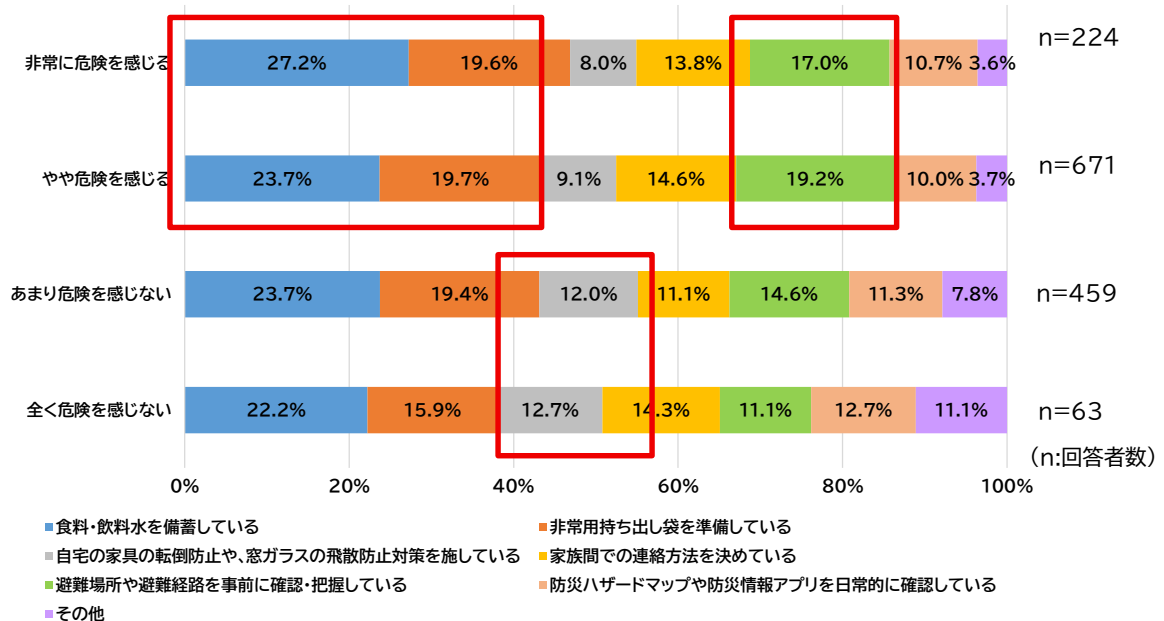
(2)あなたご自身が取組んでいる防災対策(問17)

- 回答者が取組んでいる防災対策としては、「食料・飲料水(3日以上)を備蓄している」が343人と最も多く、次いで「非常用持ち出し袋(ラジオ、懐中電灯、救急用品など)を準備している」が275人、「避難場所や避難経路を事前に確認・把握している」が241人となっている。
- 前項の自然災害に対する危険性の回答別で分析すると、**危険を感じている人は、避難場所や避難経路を確認している割合が高く、危険を感じていない人は、「自宅の家具の転倒防止や、窓ガラスの飛散防止対策を施している」の割合が高い。**

<取組んでいる防災対策>



<危険度別防災対策>

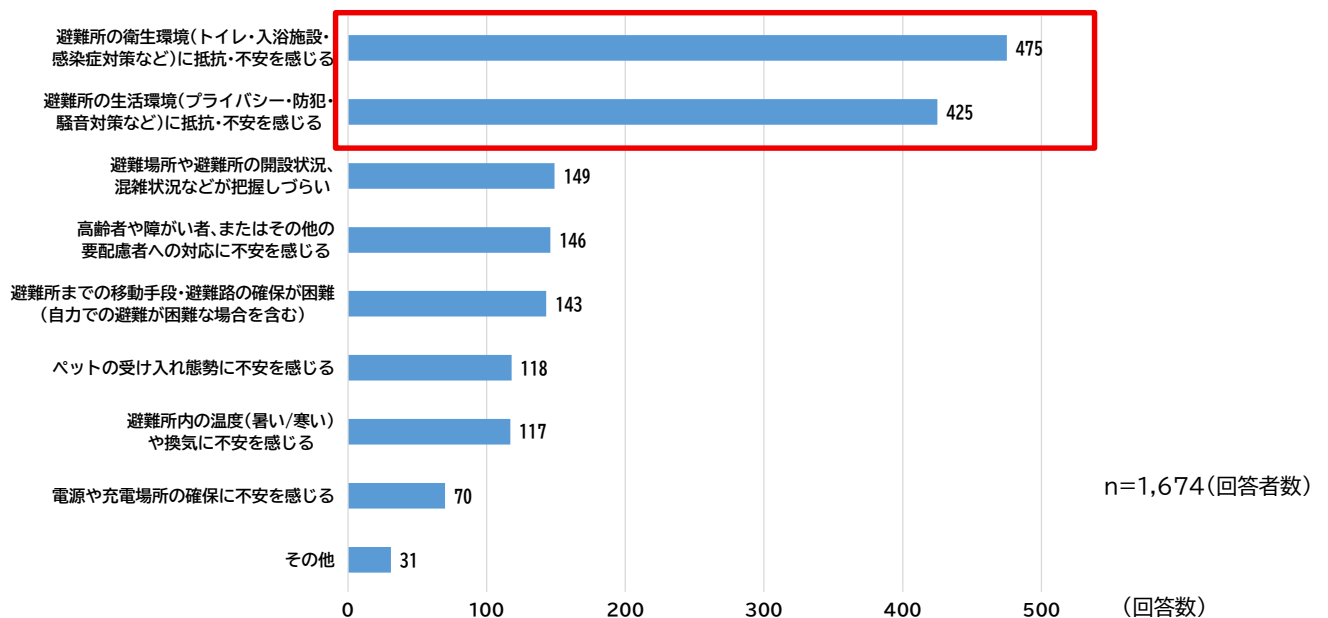


避難所の「衛生環境」、「生活環境」の充実が円滑な避難活動につながる

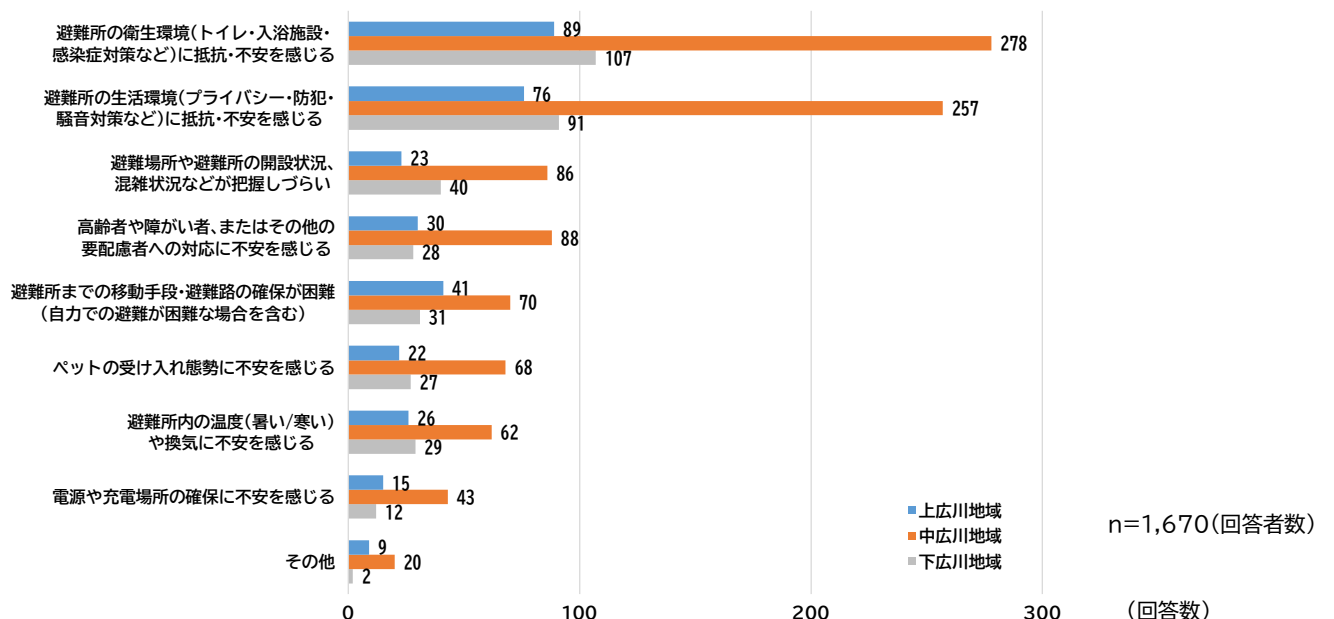
(4) 避難所の利用についての課題や問題(問19)

- 避難所を利用するうえで回答者が感じている課題・問題点として、「避難所の衛生環境(トイレ・入浴施設・感染症対策など)に抵抗・不安を感じる」が475人と最も多く、次いで「避難所の生活環境(プライバシー・防犯・騒音対策など)に抵抗・不安を感じる」の425人と、この2つの回答が非常に多いことから、**個人のプライバシーや衛生に関して非常に重要である**と感じていることがわかる。
- 地域別に見ると、上広川地域は「避難所までの移動手段・避難路の確保」、中広川地域では「高齢者や障がい者、またはその他の要配慮者への対応」などの回答割合が他の地域よりも高い。

<避難所利用の課題・問題>



<地域別の課題・問題>

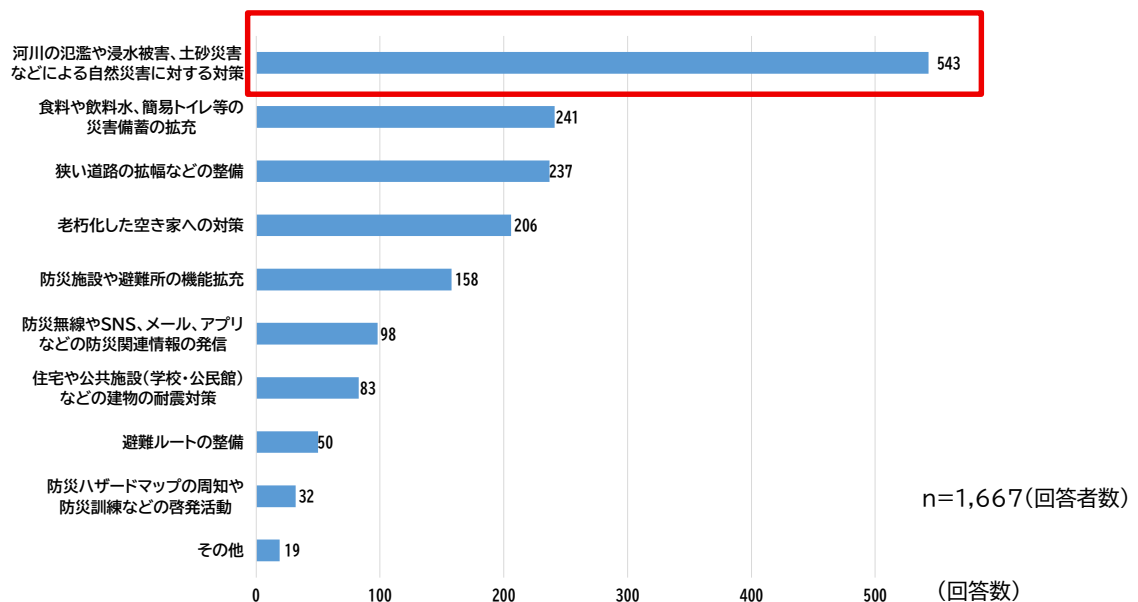


自然災害は共通の防災対策だが、地域別では対策への意識が異なる

(5) 広川町の防災対策に関する取組(問20)

- 回答者が広川町の防災対策に期待する取組は、「河川の氾濫や浸水被害、土砂災害などによる自然災害に対する対策」が543人と最も多く、次いで「食料や飲料水、簡易トイレ等の災害備蓄の拡充」の241人、「狭い道路の拡幅などの整備」の237人となっている。
- 地域別に見ても自然災害に対する対策が最も多く、中広川地域は町全体と同様の割合だが、**上広川地域においては「老朽化した空き家への対策」が自然災害対策の次に高く、下広川地域においては狭い道路の拡幅が自然災害の次に高い。**
- 近年の豪雨災害により、自然災害への備えは町全体の重要な対策**であるが、空き家問題や避難場所へのルートの確保等など、地域ごとに優先度を検討する必要があることが推測される。

< 防災対策 >



< 地域別防災対策 >

